

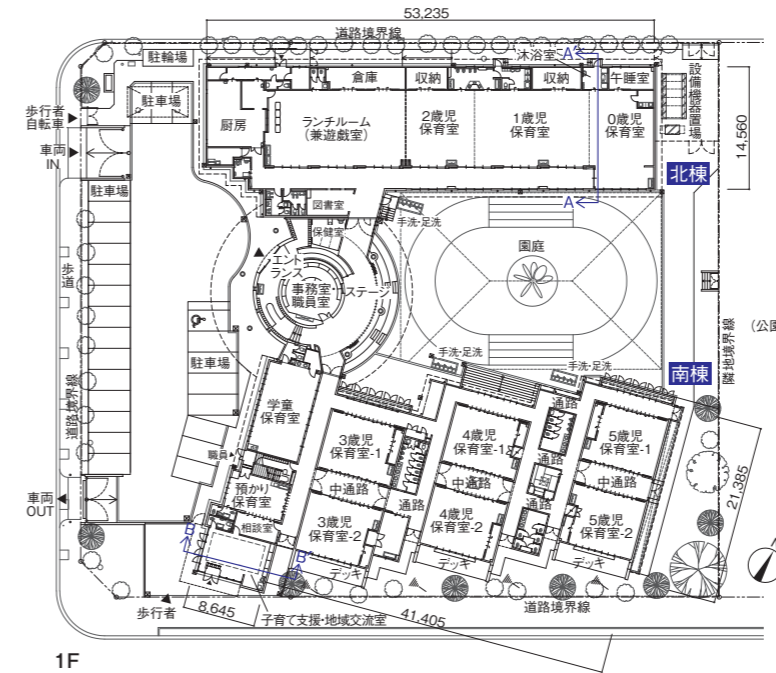
幼保施設

Childcare Center

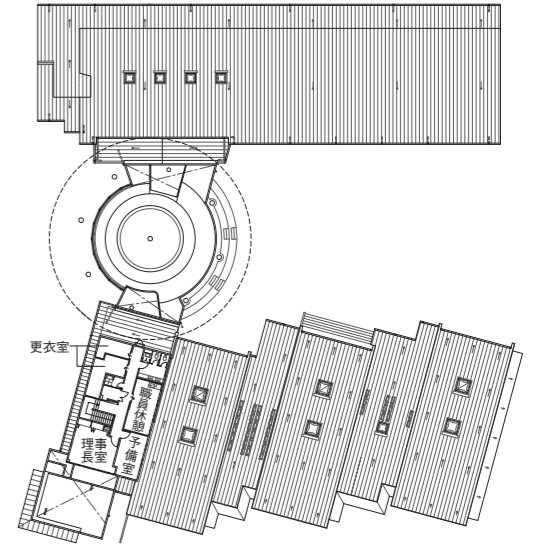


約5,000㎡の整形の敷地に建つ園舎は、ツーバイフォー工法による北棟と南棟が鉄骨造の円形の中央棟で結ばれたコの字型の建物で、隣接する公園につながるように園庭が確保されている。低層建築物であるが遠景からもシンボリックであり、見る方向によりさまざまな表情をもつように、外観デザインはマル・サンカク・シカクの組み合わせで、白と黒のモノトーンを基調に青・赤・黄色が使われている。

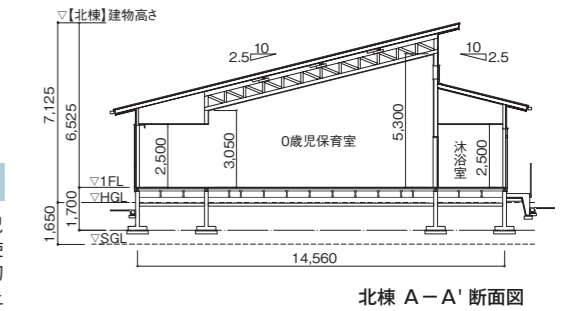
北棟(上写真)と南棟(下写真)はツーバイフォー工法で建設。北棟の柱のない大空間(幅約14.5m×奥行約53.2m、高さ最大5.3m)は、ネイルプレートトラス構造により出来上がった。



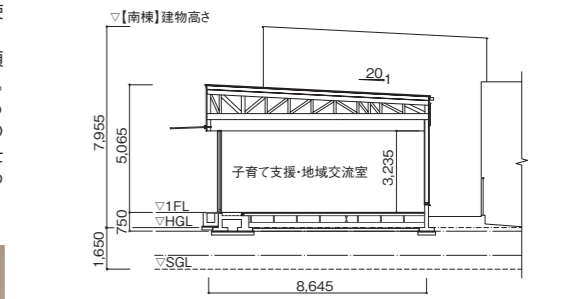
1F 平面図



2F



北棟 A-A' 断面図



南棟 B-B' 断面図

ネイルプレートトラスで大空間を創出 大規模木造の幼保施設

地域における子育ての拠点をめざすこの幼保施設は、認定こども園に加えて預かり保育に子育て支援、学童保育機能が備えられています。定員219名という大規模な園舎のため、当初、鉄骨造2階建てで計画されていました。しかし、杭工事を要さない、短工期ですむなどの理由から、中央棟以外の大部分は平屋建てをメインとしたツーバイフォー工法に変更されました。

北棟はネイルプレートトラス構造によって、高さ最大5.3mの傾斜天井で、広さ14.5m×53.2mの大空間が生まれ、収納棚で柔軟に区切れる保育室、可動壁で仕切れるランチルームが確保されました。一方、南棟は3歳・4歳・5歳児の保育室を独立させ、空間に通路・中通路を設けて回廊状にし、子供たちが縦横無尽に動き回れる設計になっています。各室の建具を開け放せば、南側のデッキから園庭まで視線や風が通る開放的な構造とし、「子供たちが幼児期の感性を育むうえで空間のダイナミズムを認識することが重要と考え、広い⇔狭い、高い⇔低い、閉塞⇔開放などの対比を感じとれる環境にしました」と設計者は話します。

学園の理事長は「木造で温かみを感じるとともに、大きい柱等の凹凸がないので建物内を広く見渡せ、子供たちを見守ることができます。また、隣の公園まで一体となる開放的なつくりで、地域に開かれた園となることを目指しています」と語られました。

南棟



(上) 1階西側に設けられた学童保育室。子供たちの創造性を育む場となるように内装が工夫されている。園児のスペースはすべて1階につくられ、この西側の2階に教職員スペースがある。



(中) 南西の角に配置された子育て支援・地域交流室。地域に開かれた施設として利用しやすいように、南側道路からアクセスして直接入室できる出入口がある。

(下) 3歳児保育室。ガラス戸の奥に中通路ともうひとつの3歳児保育室があり、さらにその先に広がる園庭まで見通すことができる。ガラス戸を開ければ奥行き約19mの大きな一室になる。



北棟



(上) 0歳・1歳・2歳児の保育室は、園児数や使い方に応じて柔軟に区切れるように設計され、上吊り式ガラス戸を開け放せば廊下まで一体的に見える。

(下) 高さ最大5.3mの傾斜天井のランチルーム。誕生日会などの行事にも使われている。写真奥の壁に見えるのは可動間仕切り吊り戸で、開け放すことができる。



物件概要

Childcare Center

藍咲学園

- 所在地: 京都府木津川市
- 用途: 幼保連携型認定こども園
- 構造: 枠組壁工法[準耐火建築物] (一部鉄骨造)
- 規模: 2階建て
- 敷地面積: 4,997.96㎡ (1,511.88坪)
- 建築面積: 2,253.75㎡ (681.76坪)
- 延床面積: 2,211.83㎡ (669.08坪)
- 運営: 社会福祉法人 楽慈会
- 設計・監理: 桂内藤建築事務所
- 施工: 三和建設株
- 建方工事: 三井ホームコンポーネント(株)
- 工期: 2016年6月～2017年2月
- 用途地域: 第1種中高層住居専用地域
- 建築条件: 建蔽率60%、容積率200%